

**『第9回福井CST公開セミナー』のご案内**  
**～ 第13回福井CST合同研修会 ～**

主催：福井大学

後援：福井県中学校教育研究会理科部会，福井県小学校教育研究会理科部会

■日時：2015年11月1日（日）15：15～18：00（予定） 受付15：00～

15:00	15:15	15:30	16:30	16:40	17:50	18:00
受付	開会行事	口頭発表	休憩	ポスター・ ワークショップ	閉会式	

■会場：福井大学文京キャンパス（福井市文京 3-9-1） 総合研究棟 I 13階大会議室

■研究発表の申し込み

- 1) 締 切：2015年10月5日（月）
- 2) 発 表 者：福井県内のCST，CST養成プログラム受講者，理科教育に関心のある方
- 3) 発表内容：CSTまたは理科教育に関連すること（教材開発・実践・研修・活動など）
- 4) 発表形式：口頭発表（～4件），ポスター発表またはワークショップ形式（10件程度）
- 5) 発表時間：口頭発表の場合，15分（発表12分，質疑応答3分，交代を含む）  
 ポスター発表またはワークショップの場合，60～70分  
 （希望者には、可能な範囲で長机・椅子・電源等準備いたします）
- 6) 準備できる機器：液晶プロジェクター（口頭発表の場合）
- 7) 申込方法：E-mail 又は FAX で，発表題目，氏名，所属，連絡先住所，電話/FAX 番号，  
 E-mail アドレス，および使用する機器を記入して下記にお申し込みください。  
 なお，共同研究者についても氏名と所属を記入してください。
- 8) 要旨原稿：A4 判 縦，横書（様式は福井CSTのHPよりダウンロードして下さい。）1～2枚
- 9) 原稿締切：2015年10月20日（火）必着。可能な限り、メール添付で提出下さい。  
 Pdf形式での原稿提出を推奨しますが、Word，一太郎でもかまいません。

■参加の申し込み

- 1) 締 切：2015年10月23日（金）
- 2) 申込方法：E-mailに、氏名，所属，連絡先住所，電話/FAX 番号，E-mail アドレス  
 を記入して下記にお申し込みください。

■参加費： 無料

■申込先および連絡先

〒910-8507 福井市文京 3-9-1  
 福井大学教育地域科学部 CST企画運営事務局 宛  
 Tel&Fax：0776-27-9928（CST企画運営事務局）または Tel：0776-27-8693（西沢）  
 E-mail：cstfukui@f-edu.u-fukui.ac.jp

■当日の状況

当日の午前中は、同一会場にて「第18回物理教育に関するシンポジウム」が開催されています。  
 当日の11:00～15:00は、同日会場にて「理科教育フォーラム2015」が開催されています。  
 11:00～12:00 講演「水月湖年縞堆積物が語る地球の歴史」 名古屋大学教授 北川浩之氏

←左の余白は25ミリ

↑ 上(下)の余白は30ミリ

右の余白は25ミリ→

# 小学校5年理科研究とその実践 題名は16ポイント、ボールド

単元「物のとけ方」での新教材について 副題は14ポイント使用

○福井太郎<sup>A</sup>, 越前次郎<sup>B</sup>, 小浜花子<sup>C</sup> 氏名・所属は10.5ポイント使用。  
FUKUI Taro, ECHIZEN Jiro, OBAMA Hanako  
福井大学<sup>A</sup>, 福井大学大学院<sup>B</sup>, 日本海小学校<sup>C</sup>

【キーワード】 理科授業, 粒子概念, 教材研究, 小大連携 5語以内

標題と本文は1行開ける。本文は、2段組とする。余白を上下30ミリ、左右25ミリとする。

## 1 目的

小学校5年単元「物のとけ方」における理科学習は、・・・。

(本文は10.5ポイント活字。1行当たりの語数と行数は、著者で決めて良い。)

鯖江(2011)は・・・と指摘している<sup>1)</sup>。

## 2 方法

### (1) 教材研究

粒子領域における教材研究を行った。授業時間数は表1に示す。

表1 学習指導要領中の教科の時間数

--

#### 1) 教材開発の背景

これまでの実践および先行研究から以下の教材が利用されたり、提案されたりしている。

- ① ○○  
教科書では、・・・。
- ② △△  
勝山らは、・・・。

#### 2) 教材開発の考え方

以上の調査と

### (2) 実験方法

実験の過程は・・・・・・・・・・。

## 3 結果

以上の結果は～～であった。

・・・  
・・・

実験・観察中の様子を図1に示す。児童にとっては、操作性が向上し、・・・。



図1 実験中の様子

これらの結果を整理すると表2のようである。

表2 新教材と従来教材の比較


## 4 考察

単元「物の溶け方」における理科学習は、中学2年生での原子・分子の学習に繋げる単元の一つであり、・・・・・・・・。

附属学校園(2011)は、・・・・・・・・と述べている<sup>2)</sup>。

## 5 まとめ

本研究では・・・・・・・・のことが明らかになった。

## 参考文献

- 1) 越前次郎『小学校における粒子領域の学習展開』北陸出版(2011)。
- 2) 附属学校園「粒子分野における新教材の開発」, 理科教材研究, Vol.1, No.2, pp.34-56(2011)。

↓ 下の余白は30ミリをとる。

要旨は、1または2ページで作成のこと